かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 3 No 2　　１９号　　平成７年　２月　１日

阪神大震災に寄せて

院　長

先月起こった阪神大震災の被害は、日を追う毎に拡大し、戦後の災害としては、未曾有のものとなってしまいました。人命は言うに及ばず、建物、道路、鉄道などの被害の有様を見ていると、本当に地震の怖さを痛感させられました。為す術もなく、燃え上がる町、普段、なんとも感じていない、水の大切さを、今更ながら感じてしまいました。残ってしまったのは廃墟だけ、表に出てこない幾つもの悲劇を、飲み込んでいるのでしょう。遅ればせながら、犠牲になった方々の、ご冥福を御祈りいたします。

マスコミを見ていると、政府の対応が遅れたとかの批判が目につきます。対応が遅れたとしても、この大きな震災で、一体誰が何をできたでしょうか。そんなことより、自然の中での人間の無力さ、自然の力の大きさを、もう一度改めて考えてみましょう。どんなに人間が知能があり科学力があっても、自然の前では無力ということを、認めてしまいましょう。そうしなければ、次の行動が出てこないかも知れません。

されど人間です、今からでも出来ることはあるはずです。今回の地震のことで、感心させられたお母さんの言葉があります。お子さんは嘔吐下痢症で、2日にわたって点滴を受けなくてはならない状態でした。2日目ともなると、点滴を刺すときのこどもの泣き声が、苦痛になってくるのでしょう。そのお母さんは、点滴が終わった後に一言「神戸では、点滴も受けられないこどももいるのでしょうね」と言いました。そんなふとした言葉から、人としての優しさが伝わって、思わずその子に「いいお母さんをもってよかったな」と言ってやりたい気持でした。こんなことを例にあげたくはないのですが、病気の時、病院で治療が受けられる幸せ（もちろん病気になることが幸せというわけではないのですが）、こんな時にはそう感じてもいいのではないでしょうか？。病気になっても、病院で治療を受けられない、今までは遠い外国やテレビの中だけのことでした。それが今現実に、日本という国の中で起こりつつあるのです。医療に携わる僕らスタッフ一同、そして病気のこどもをもつお母さんたち、一緒になって何が出来るか考えてみましょう。

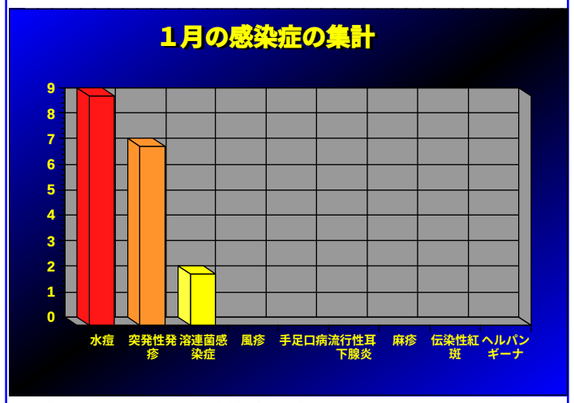
災害は地震だけではありません。また何時自分たちが、被害を受けるかもわかりません。今回の地震を教訓として非常時の準備、対応、連絡方法などを、家族みんなで確認しておくことも大切でしょう。

阪神大震災義援金について

冒頭でも述べましたように、今回の地震は、重大な被害をもたらしました。遅ればせながら、当院でも被災者に対する義援金を送ることにしました。

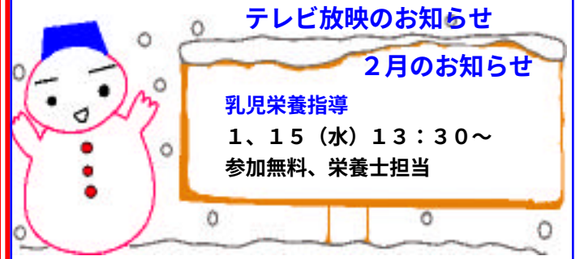
集まった義援金は、当院が責任をもって、関係団体に送るつもりです。金額、送り先は２月号の新聞に発表いたします。

受付前に、募金箱を用意しますので、よろしく、皆様のご協力をお願い致します。



今月も、目だった感染症の流行はありません。しかしインフルエンザは明らかに増加し、嘔吐下痢症も増加しています。もちろん普通のかぜも増加し、区別が出来ないことが、多々あります。今後はもう少し、細かく分類していこうと思っています。

院内の案内でもお知らせしているように、２月４日（土）に東北放送で１３：３０～１４：００、「すこやかさん　こんにちわ」が放送され、「こんなとき　どうするの」という題でテレビ出演します。大きく分けて、お母さんたちの心配する症状についてその考え方や対処の仕方、予防接種、小児科へのかかり方について話します。



テレビ出演記

院長

テレビの打ち合わせというのはなかなか大変で、１月２０日の忙しい診療終了後、約３時間にわたって、ディレクターと話し合い（原田さん有難うございました）、翌日には台本が送られ-、本当にテレビに出るのだなあと、やっと実感が沸いてきたのと同様に不安が高まってきました。１月２３日には東北放送に行って、台本-を参考にして時間合わせを行い、３０分番組なのに、終わったのは１１時半過ぎでした。ディレクターとアナウンサーの才能に、全く舌を巻いて帰ってきたのでした。その晩は遅くまでかかったせいでしょうか、何となく興奮して眠れない一夜となりました。そして２５日はビデオ撮りの日です。きっとお母さんたちの中にも、なにか変だと気付いた人がいたかも知れません。７：３０に着いてまず食事、その後、なんとメークをしたのです。メークと言っても、美容師さんが係きりになってくれるスタートは違い、茶色のファンデーションをさっと塗り、髪を少し撫でるだけのものでした。もちろん内心がっかりしたのは、御察しのとうりです。次はカメリハ、もちろんカメラリハーサルの略で、本番の時間どうりに練習することです。なんと台本は、分ではなく秒刻みで進行が書いてあり、すべてを時間が支配している、全く驚異の世界です。あがってしまって何もいえないなどという不安も、始まってしまってからは、全く嘘のように忘れてしまい、アナウンサーのかじ取りでなんとか乗り切った次第です。（郡さんそ有難うございました）ともかく、まず第一に考えたのは、なるべく台本を見ないということで、いい男に写っているかどうかなどは、考えも及びませんでした。果たしてうまくいったかは、放送を見ての御楽しみというところでしょうか。終わってから、スタッフにほめられましたが、当然社交事例ということで実感としては沸いてこず、早くその場から逃げたい気持でいっぱいでした。

興味のある方はご覧になって、感想を投書していただければ幸いです。

医学マメ知識　その１６

インフルエンザについて

インフルエンザとかぜの違いはなんですか

外来でもそのことを聞かれますが、区別することが難しいこともあります。簡単に言ってしまえば、インフルエンザの方が、普通のかぜよりも重症だと考えてください。どちらも、ウイルスによって起こるもので、症状以外の違いはありません。のどを見ても、インフルエンザと書いてあるわけではなく、初期には区別することは困難です。

仙台では、どんな型が流行していますか

現在仙台では、A香港型だけが見つかっています。山形ではB型が見つかっているようですが、今後の流行の予想はまだ立っていません。実際インフルエンザのこどもたちもかなり多くいますが、地域性がありますが、しばらく流行は続くと考えられています。

A香港型インフルエンザの症状と経過はどうですか

一般的にインフルエンザは、高熱、呼吸器症状と全身症状が見られます。今流行しているA型も４０度近い発熱が２～３日前後続き、咳が見られ、腹部症状があり、大きい子では関節や筋肉の痛みを訴えます。呼吸器症状の咳は、そんなにひどくはなく、腹部症状の嘔吐や下痢も余り多くは見られません。全身症状としてる、倦怠感、小さなこどもの機嫌の悪さや元気のなさは、かなり強いようです。なかには発熱が１週間続いたり、一度下がった熱が再び上がる子もいます。

インフルエンザの診断は、どうして行うのですか

本当のの診断は、のどのウイルスの培養や採血して抗体価を調べなければなりません。しかし検査は、両方とも費用がかかり、結果が出るまで時間がかかってしまうので、普通は行っていません。

実際の診断は、前に述べた症状や重症度を参考にして行われています。それぞれの医師が診断するわけですから、同じ症状なのに片方はかぜ、片方はインフルエンザということも起こってしまいます。小生は、熱が出なければインフルエンザと診断しませんが、熱がないのに診断されたという話もあります。特に乳幼児の診断はなかなか難しいものです。訴えられないので、関節の痛み筋肉痛などは参考にならないからです。そんな場合は、両親や兄弟の症状を参考にして、総合的に行うようにしています。

学校や幼稚園への届け出は、どうしたらいいでしょうか

冬はインフルエンザばかりでなく、なん種類のかぜも流行します。咳や鼻水だけでなく熱が出ても、初期の段階では区別がつきません。届け出は、確定してから行うようにしてください。症状が変動するので、心配なときには間隔を短く経過を見てもらうようにしてください。

インフルエンザと届けた場合には、出席停止の扱いになります。出席は、発熱がなくなってから2日以上経過してからです。出来れば出席の前に受診するようにしてください。

尚小松島小でのインフルエンザ様症状の欠席者は、多少減少傾向とのことです。

注意すべきことは、どんなことですか

インフルエンザが問題になるのは、重症で時によっては死亡者が出ることがあるからです。発熱や全身倦怠から食欲がなくなり、水分が取れなくなると悪循環を形成し脱水を起こしてきます。熱があっても出来るだけ水分を与えるようにし、心配なら早目に受診しましょう。（前にも書きましたが３日分薬をもらっているからと言って、３日間待つ必要はありません）インフルエンザの合併症で見られるのに肺炎、中耳炎があります。咳がひどくなったり耳を痛がった場合には、注意が必要です。時にもっと早く連れてくればと思うことがあります。そうならないうちに具合が悪ければ、早目に受診しましょう。

編集後記

今回は、埋め尽くすくらい、いっぱい書いてしまい、申し訳なく思っています。もうすぐ早いもので２０日で、２周年になります。ますますがんばらなければと思っています。いつもですが、投稿してください。

K's clinic

目次に戻る　前の号　次の号